

1

## 安曇野市版レッドデータブックの 改訂について



## 1.1 安曇野市版レッドデータブックとは

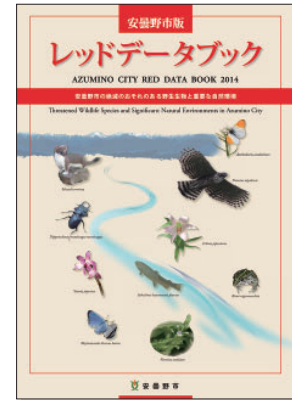
### (1) レッドデータブックとは

レッドリストとは、絶滅のおそれのある野生生物の種のリストです。1966年に国際自然保護連合（IUCN）が『IUCN絶滅危惧種レッド・リスト™』（The IUCN Red List of Threatened Species™）を発表しました。これをうけ、日本では、環境庁（現在の環境省）が1991年にレッドリストを公表しており、これ以降は定期的な改訂を行っています。最新のレッドリストは環境省レッドリスト2020です。さらに、次期レッドリスト公表に向けた作業も進められており、2024年度以降に公表される予定です。

レッドデータブックとは、レッドリストに掲載された種について、それらの生息状況や存続を脅かしている原因等を解説した本のことです。1966年に国際自然保護連合（IUCN）が発行したレッドリストの表紙が赤色であったことから、レッドデータブックと呼ばれるようになりました。

長野県内では、2002～2005年に長野県がレッドデータブックを公表しました。その後、2014年に植物編、2015年に動物編の改訂を行っており、現在は新たな改訂作業に取り掛かっています。

長野県内の市町村では、これまでに安曇野市のほか長野市、塩尻市、千曲市、白馬村、阿智村が独自にレッドデータブックやレッドリスト（名称や内容は各市町村により異なる）を作成しており、長野市、千曲市は改訂を行っています。



安曇野市版レッドデータブック 2014

### (2) 安曇野市版レッドデータブック作成の目的

安曇野市版のレッドデータブックは、2014年に発行され、安曇野市版レッドリストに加え、レッドリスト掲載種の解説、市の重要な自然環境、注意すべき生物、自然豊かな安曇野市を次世代に引き継ぐために、といった内容で構成されています。

環境省のレッドリストは、対象とする種の日本国内全体での生息状況をもとに評価が行われています。同様に、長野県版レッドリストは、対象とする種の長野県内全体での生息状況をもとに評価が行われています。

これらの考え方と同様に、安曇野市が独自に作成するレッドリストでは、安曇野市域における対象種のこれまでの生息記録や現在の生息状況の情報をまとめたうえで、絶滅が危惧される程度（カテゴリー）を評価し公表しています。安曇野市版レッドリストは、市内の状況をきめ細かく調査し、評価できる点で、環境省・長野県のレッドリストよりも安曇野市の現状に即した評価と記述ができるという特性があり、安曇野市が独自にレッドリストを作成することの重要な意義となっています。

『第2次安曇野市環境基本計画（2023改定版）』では、安曇野市の特徴として「豊かな自然」をあげています。この「豊かな自然」を維持・創出していくためには、まずは自然の仕組みの微妙なバランスや自然に対して起きていることを知り、共存・共生を図っていくことが必要です。そこで『第2次安曇野市環境基本計画（2023改定版）』では、基本目標①として「共存・共生をはかるべきもの」を掲げ、個別目標5として「生きものをまもる」を設定しました。安曇野市としては、「生きもの

調査の実施と貴重な動植物の保護」「生きものの生息・生育環境の確保」「外来生物への対策」といった施策を推進していくため、これら全ての基礎資料となるレッドリスト及びレッドデータブックの改訂と活用は、施策の根幹をなすものといえます。

### **(3) 安曇野市版レッドデータブック 2014 について**

2014年に発行した『安曇野市版レッドデータブック 2014』は、北アルプスの高山帯から平野部の湧水地にいたる多様な安曇野市の自然環境と、そこに生育・生息する様々な野生生物を適切に守っていくのに必要な基礎資料とする目的で作成されました。『安曇野市版レッドデータブック 2014』ができるまでは、安曇野市の野生生物や自然環境に関する包括的な基礎データはありませんでした。

『安曇野市版レッドデータブック 2014』では、第Ⅰ～Ⅲ章で安曇野市版レッドデータブック及び市の自然環境などについて記載した後、第Ⅳ章で絶滅のおそれのある野生生物（レッドリスト種）、第Ⅴ章で重要な自然環境、第Ⅵ章で注意すべき生物についてリストと写真解説を掲載し、第Ⅶ・Ⅷ章で自然豊かな安曇野市を次世代に引き継ぐための方策などをまとめました。

このようにして作成された『安曇野市版レッドデータブック 2014』の活用については、2018年に策定し、2023年に改定した「第2次安曇野市環境基本計画（2023改定版）」で基本目標の一つである「共存・共生をはかるべきもの」に明記され、実際に自然環境の保全についての市民への普及啓発や、自然環境へ影響が大きい工事等に際しての環境調査に活用されています。

安曇野市では、レッドデータブック活用の具体的な取り組みとして、市民への普及啓発活動を進めています。毎年、複数回開催される自然観察会は、専門的知識をもつ講師から安曇野市の自然環境や動植物の特徴について実体験を通して学ぶ機会となっています。また、工事等への対応としては、2017年に生物多様性アドバイザー制度を創設し、個別の事案に対して対応できる体制を確立してきました。

## 1.2 レッドデータブック改訂の背景と目的

### (1) 改訂の背景と目的

この度、『安曇野市版レッドデータブック2014』発行から約10年を経る中で、環境省や長野県のレッドリストの見直しなどの社会的状況の変化や、安曇野市における自然環境・野生生物の変化に対応する必要が生じてきました。これは、レッドデータブックを活用している自治体としては当然の状況といえます。このような背景のもと、2022～2023年に最新の状況を反映させるための現地調査・文献調査を行い、今後も安曇野市の自然環境・野生生物を適切に守り続けていくために、レッドデータブックの改訂を実施しました。

### (2) 安曇野市版レッドデータブック改訂版 2024 について

本書は、2014年に発刊された『安曇野市版レッドデータブック2014』を改訂したものです。安曇野市内に生息・生育している絶滅のおそれのある野生生物や、安曇野市の自然環境、注意すべき生物（外来種など）についての情報を掲載しています。そのほか、安曇野市の自然環境の変化や、今後、その自然環境を次世代に引き継いでいくために必要な取り組みなどを記載しました。

本書の第3章に掲載した絶滅のおそれのある野生生物のリスト（レッドリスト）及び第4章に掲載した注意すべき生物は、2012年以降の市内の動植物の確認記録や標本を整理するとともに、補足的な現地調査を行って、市内における動植物の生育・生息状況を整理し、リストを見直しました。レッドリスト及び注意すべき種の写真及び解説については、本書改訂時に新たに追加された種のみを掲載しました。2014年版から継続して掲載している種の写真及び解説は、『安曇野市版レッドデータブック2014』を参照してください。

安曇野市生物多様性アドバイザー設置要綱、引用・参考文献・ウェブサイト、環境省及び長野県のレッドリスト該当種、安曇野市の天然記念物・希少野生動植物、協力者は、資料編として掲載しました。また、レッドリスト種、注意すべき生物の和名索引を巻末に掲載しました。

表 1-1 2014年版と2024年版の主な掲載内容

安曇野市版レッドデータブック2014 主な掲載内容		安曇野市版レッドデータブック改訂版2024 主な掲載内容
Ⅲ. 安曇野市の自然環境	⇒	2. 安曇野市の自然環境の変化 ※近年の土地利用、気候変動、植生の変化などを記載
Ⅳ. 安曇野市の絶滅のおそれのある野生生物（レッドリスト） ※リストと掲載種の説明	⇒	3. 安曇野市の絶滅のおそれのある野生生物（レッドリスト） ※2014年版から改訂したリストとその内容 ※種の説明は、新規追加種のみ掲載
Ⅴ. 安曇野市の重要な自然環境 ※市内における重要な自然環境を紹介	⇒	第5章のなかで、重要な自然環境について概要を紹介
Ⅵ. 注意すべき生物（安曇野市の自然環境に影響を及ぼす可能性がある生物） ※リストと掲載種の説明	⇒	4. 注意すべき生物 ※2014年版から改訂したリストとその内容 ※種の説明は、新規追加種のみ掲載
Ⅶ. 自然豊かな安曇野市を次世代に引き継ぐために	⇒	5. 自然豊かな安曇野市を次世代に引き継ぐために ※2014年版の刊行以降、取り組まれてきたことも踏まえ内容を改訂

## 1.3 レッドデータブック改訂体制と作業内容

### (1) 改訂の体制と流れ

安曇野市版レッドデータブックの改訂にあたっては、特別に委員会を設置することなく、野生生物に詳しい専門者が構成される安曇野市生物多様性アドバイザー連絡会議が中心となり、全12回の検討を行いました。また、この検討と並行して、さらに詳細な内容を検討するため専門分野ごとの専門家の協力を得て、生物情報の収集整理、カテゴリーの検討等も行いました。

こうして、レッドリストや見直しを進める中で、高山帯での生物情報の不足などの課題が見えてきたため、必要に応じて現地調査も行いました。

安曇野市の自然環境保護の基礎資料であるレッドデータブックの改訂は、安曇野市環境基本計画推進のための重要な事項であるため、2023年度第5回安曇野市環境審議会での協議も経ています。

本書の編集については、安曇野市市民生活部環境課を事務局とし、株式会社環境アセスメントセンター北信越支社に業務委託して実施しました。本文及びコラムの執筆・監修は、安曇野市生物多様性アドバイザー、事務局のほか、一部のコラムを中村寛志信州大学名誉教授に執筆していただきました。

その他、多くの方に情報提供や写真収集にご協力いただきました（資料編の協力者に記載）。

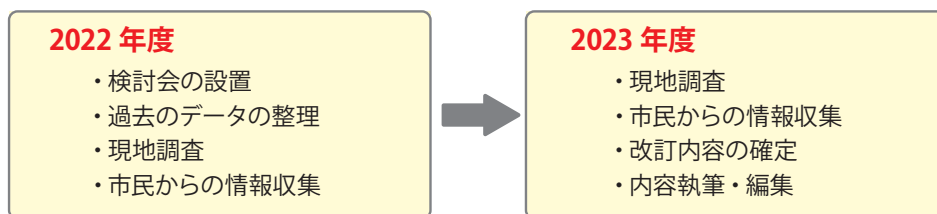


図 1-1 改訂の流れ

表 1-2 安曇野市生物多様性アドバイザー（五十音順）

氏名	所属	担当分類群
浅川 行雄	地域環境研究室	全般、植物（現地調査）
植松 晃岳	野生生物資料情報室	鳥類
岸元 良輔（2022年7月～）	NPO法人信州ツキノワグマ研究会	哺乳類
北野 聡	長野県環境保全研究所	魚類
東城 幸治	信州大学理学部	昆虫類、その他無脊椎動物
那須野 雅好	安曇野市教育委員会	昆虫類
松田 貴子	安曇野市教育委員会 （安曇野市豊科郷土博物館）	植物
吉田 利男（～2022年4月）	信州大学名誉教授（故人）	哺乳類、爬虫類、両生類



表 1-3 改訂作業の協力者一覧(順不同・敬称略)

区分	担当分野等	氏名	所属等
協力者	植物	大塚 孝一	長野県植物研究会 副会長
		尾関 雅章	長野県環境保全研究所
		橋渡 勝也	安曇野市教育委員会 教育長
		藤田 淳一	長野県植物研究会
		横内 文人	長野県植物研究会
	鳥類	丸山 隆	信州野鳥の会顧問
		堀田 昌伸	長野県環境保全研究所
		楯石 明雄	信州野鳥の会事務局長
	昆虫類	四方 圭一郎	飯田市立美術博物館
		中村 寛志	信州大学名誉教授
		中田 信好	田淵行男記念館 館長
		降旗 進一郎	松本むしの会
		丸山 潔	松本むしの会
		小野寺 宏文	生きもの調査研究所
		田島 尚	日本蛾類学会
		安池 恭	日本甲虫学会

表 1-4 検討会の開催状況

年度	委員会	開催日	内容
2022年度 (令和4年度)	第1回	2022年5月13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業の体制、スケジュールの確認</li> <li>・レッドリスト種見直し方法</li> <li>・現状把握調査の計画</li> <li>・レッドデータブック記載内容の検討</li> </ul>
	第2回	2022年7月19日	
	第3回	2022年9月29日	
	第4回	2022年11月21日	
	第5回	2023年1月19日	
	第6回	2023年3月10日	
2023年度 (令和5年度)	第7回	2023年5月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報収集、現地調査結果の確認</li> <li>・レッドリスト記載種の確認</li> <li>・レッドデータブック記載内容の確認</li> </ul>
	第8回	2023年8月24日	
	第9回	2023年10月26日	
	第10回	2023年12月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レッドリスト種等の最終調整・確定</li> <li>・レッドデータブック記載内容の確認</li> <li>・レッドデータブック内容の承認</li> </ul>
	第11回	2024年2月9日	
	第12回	2024年3月11日	



レッドデータブック検討会の様子(第7回)

## (2) 改訂作業の内容

レッドリストや注意すべき生物の見直しにあたっては、市内の野生生物の最新の生息情報を収集するため、資料調査や現地調査を実施しました。

また、市民参加型の調査である「第4回安曇野市生きもの調査2023」では希少な生物や外来生物（計66種）を調査対象種として、市民からの情報収集を行いました。

### 1) 文献収集

安曇野市内で記録のある野生生物の最新情報を把握するため、『安曇野市版レッドデータブック 2014』公開後に出版された書籍、学術報告書など約30の資料を収集し、その後の生息情報を整理しました。

収集した資料一覧は、2014年版作成時に収集された文献と合わせて資料編に示しました。

### 2) 現況把握調査

資料調査の結果だけでは情報に乏しく、生息状況を判断できない分類群や、特に最新の生息状況を把握することが望ましい種などを対象として現地調査を行いました。調査項目及び調査方法は表1-5及び表1-6に示しました。

国立公園内や国有林内での調査は、必要な許可を得て実施しました。

表 1-5 現地調査項目一覧

分類群	調査項目	場所	調査時期
植物	生育状況調査	市内各所	2022年8～10月 2023年4～9月
哺乳類	コウモリ類調査	中房川流域、黒沢流域	2023年7月
	トガリネズミ類調査	烏川流域、黒沢流域	2023年8月
鳥類	ライチョウの生息数調査	燕岳～常念岳	2023年6月
	夜行性鳥類調査	市内各所	2023年5月
爬虫・両生類	生息状況調査	市内各所	2023年4、6、9月
魚類	生息状況調査	豊科、明科	2023年9月
昆虫類	ベイトトラップ	中房温泉	2023年9月



ライチョウ調査



魚類調査



昆虫類調査

表 1-6 現地調査内容

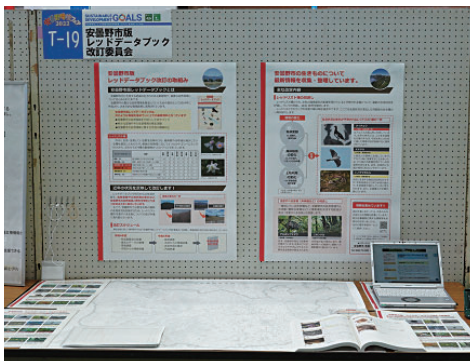
分類群	調査項目	内容
植物	生育状況調査	市内に自生している植物の調査や証拠となる標本を収集しました。
哺乳類	コウモリ類調査	かすみ網とハーブトラップを用いた、コウモリ類の捕獲を行いました。
	トガリネズミ類調査	ピットホールトラップを用いた調査を行いました。また、山岳関係者に協力いただき、山小屋で拾得された死体を収集しました。
鳥類	ライチョウの生息数調査	北アルプスの高山帯においてライチョウの生息数を調査しました。
	夜行性鳥類調査	フクロウ類やヨタカを対象に、日没後の鳴き声の確認を行いました。
爬虫・両生類	生息状況調査	ツチガエル、モリアオガエル、ヒダサンショウウオについて、過去に記録のある場所や市民から情報提供があった場所での調査を行い、最新の生息状況を把握しました。
魚類	生息状況調査	複数の水域を対象に採捕調査を行い、希少種を中心とする生息状況を把握しました。
昆虫類	ベイトトラップ	地上性昆虫を対象に、トラップを用いた採集調査を行いました。

### 3) 市民への情報提供の呼びかけ

市のホームページにて市民からの情報を随時収集したほか、2023年3～10月にかけて実施した「第4回安曇野市生きもの調査2023」において、レッドリスト種の候補となる希少な生物や注意すべき生物の候補となる外来生物などについて、情報を収集しました。

また、2022～2023年度の秋季に開催された「安曇野環境フェア」では、レッドリスト改訂についてのブースを設置し、情報収集を行いました。

収集した情報は、レッドリスト種の選定や注意すべき生物の掲載の参考としました。



環境フェアの設置ブース



来場者からの情報収集